

目次

1. 事務局の移転
2. 会費納入の案内
3. 連絡先・所属の変更通知のお願い—返送メールのお尋ね—
4. 第25期第1回研究例会(3月2日)のご案内
5. 日本労働社会学会第25期第1回幹事会 議事録
6. 社会学系コンソーシアム
7. その他

---

1. 事務局の移転

以下のように、事務局が専修大学から変わっております。

日本労働社会学会事務局(第25期)

〒112-8585 東京都文京区小日向3-4-14 拓殖大学政経学部

中川 功(なかがわ いさお)研究室

TEL/ FAX: 03-3947-9174

E-mail: [laborsociology1988@gmail.com](mailto:laborsociology1988@gmail.com) 学会HP: <http://www.jals.jp>

---

2. 会費納入の案内

★会費納入★

学会費の納入は下記口座までお願いします。

【郵便振替口座】口座番号: 00150-1-85076 加入者名: 日本労働社会学会

年会費 学生・院生会員: 6,000円 一般会員: 10,000円

会費減免制度については、下記URLをご参照ください。

<http://www.jals.jp/discount/>

---

3. 連絡先と所属の変更通知のお願い—返送メールのお尋ね—

★連絡先・所属変更★

連絡先や所属、メールアドレスを変更された方は、ただちに事務局宛へ連絡をください。大切な学会サービスを受けられなくなる可能性があります。

★前回の『通信』第25期第1,2号送信に対して、以下の会員から返送メールを受信しました。

下記会員に連絡可能な会員がおりましたら、最新メールアドレスを事務局メールアドレスまで通知していただけるよう連絡をお願いいたします。以下の方々については、当然、今

回のメーリング・リストからは削除してあります。

☆返送理由「送信先のメールアドレスが一杯のため、送信できませんでした。」

坂岡庸子会員、杉山 直会員、今井陽子会員、中田重厚会員

☆返送理由 Delivery to the following recipient failed permanently:

時井聰会員、湯浅正恵会員、島和博会員、秋山憲治会員、鎌田哲宏会員。水野博達会員、武下正行会員、鈴木さくら会員、丸山恵也会員、恒川真澄会員、小林 甫会員、山本圭三会員、楊佩蓉会員、小谷幸会員

---

#### 4. 第25期第1回研究例会（3月2日）のご案内

来る3月2日（土）、研究例会を開催いたします。報告者は、早川佐知子氏と渡部あさみ氏（ともに明治大学大学院経営学研究科博士後期課程）のお二人です。報告タイトルと要旨は下記の通りです。

皆様の積極的なご参加をお願いいたします。

日時：3月2日（土）午後3時30分より

◆場所：未定（決まり次第「速報」で連絡いたします。）

#### [第一報告]

報告者：早川佐知子（明治大学大学院経営学研究科博士後期課程）

タイトル：「専門職派遣労働者の成立要件ーアメリカの看護師の事例から」

報告要旨：本報告の目的は、日本における派遣労働の意義の再考を促すことである。派遣法制定時に想定されていた派遣労働者は、専門的な知識や技能を有する労働者であった。しかし、制度趣旨は当初より形骸化しており、これまで行われている派遣労働のほとんどは、雇用調整や人件費削減を目的とした、不熟練労働者による労働であった。先行研究の多くは、派遣労働を従来の日本的雇用慣行の枠組みの中でのみ捉えようとしている。そのため、派遣労働者の処遇を改善するための施策として提示されてきたことは、日本型の正規雇用労働者の処遇に可能な限り近づけることでしかなかった。

本報告では、制度趣旨に立ち返り、派遣労働者という存在を、日本的雇用慣行の下における正規雇用労働者とはまったく違った方向で捉えなければならぬものとする。派遣労働者とは専門的な知識や技能をもった労働者であり、それまでに雇用されていた組織の如何を問わずその経験が評価され、専門職種としての能力を活かすことができなければならない。それを可能とする派遣労働の要件とは何か、それをいかに整えるかを議論すべきではないだろうか。

そこで、専門職種の派遣労働、とりわけ看護師のケースに焦点を当てて考察する。専門職種としての知識・技能を活かして派遣労働を行う要件とは何かを検討するための方法として、アメリカの派遣看護師に焦点を当て、分析を行った。派遣看護師の「外部労働者であるという側面」「専門職種であるという側面」の双方の側面から求められる要件を、

いかにして満たしてきたのかを、主に歴史的アプローチを用いて検証する。

[第二報告]

報告者：渡部 あさみ（明治大学大学院経営学研究科博士後期課程）

タイトル：「1990年代以降における正規ホワイトカラー労働者の長時間労働問題に関する研究—日本における人事労務のフレキシビリティと長時間労働—」

報告要旨：本研究のテーマは、1990年代以降の日本における正規ホワイトカラー労働者の長時間労働問題である。とりわけ、人事労務管理の変化に着目し、長時間労働問題との関係性を明らかにする。90年代以降、市場原理主義の浸透が進む中、人事労務管理のフレキシビリティが強調されてきた。このような背景のもと、労働強化が進む一方で、正規ホワイトカラー労働者の労働時間は、増加傾向にある。現在の日本における人事労務のフレキシブル化は、労働時間短縮につながることはなく、むしろ、量・質共に、労働者への負担増大を招いている。では、この長すぎる労働時間をいかに短縮させていくのか。労働時間短縮に取り組む企業の事例分析を通じて、その方向性を模索する。労働時間短縮を試みる職場において、人事労務管理についていかなる試みがなされているのか。また、労働時間短縮過程において、労働組合はいかにその役割を果たしているのか。その実態を明らかにする。労働時間短縮実現のためには、1990年代以降、押し進められている人事労務のフレキシブル化からの脱却が必要である。そのためには、労使双方の合意に基づく、新しい人事労務のルールを確立していくことが求められるだろう。

---

5. 日本労働社会学会第25期第1回幹事会 議事録 2012年12月1日開催

1. 第24回大会総括

(1) 大会運営・参加

- ・工場見学参加者7名
- ・「工場見学記」執筆依頼→飯島裕子会員に依頼済み。

(2) 総会

開催校の責任者である大槻会員から大会会計に関する書類が提出された。繰越金が大きく減っていることから、次期大会開催校には繰越金に加えて10万円の大会援助金が支払われることとなった。また大会費については社会政策学会のような幹事会が直接管理し、大会校に大会開催費として支給する方法への変更が提案されたが、今期は変更せず、今後の検討課題とした。

鎌田とし子会員から大会の感想が寄せられている旨、橋本代表幹事より報告があり、通信への掲載について事務局の判断に委ねられた。

2. 25期幹事任務分担

(1) 幹事会構成および任務分担（○は責任者）

代表幹事：橋本健二

副代表幹事：鷺谷徹

事務局：○中川功、吉田誠

会計：○小村由香、勝俣達也

研究活動：○上原慎一、京谷栄二、村尾祐美子、戸室健作、大重光太郎

年報：○呉学殊、清山玲、園田洋一、大西祥恵

ジャーナル：○山下充、樋口博美、小川慎一、神谷拓平

関西労働社会学会；吉田誠

労働調査等プロジェクト委員会：○小村由香、戸室健作、橋本健二

第 25 回大会開催校：東北福祉大学 園田洋一

社会学系コンソーシアム：橋本健二、村尾祐美子

社会政策関連学会協議会：清山玲

(2) 監事：大梶俊夫、松戸武彦

(3) 学会賞選考委員会：藤田栄史、大野威、笹原恵

### 3. 来年以降の幹事会日程（第一土曜日を基本とする）

2013 年

3 月 2 日 幹事会＋研究例会

7 月 6 日 幹事会＋研究例会

9 月 7 日 幹事会＋大会用プレシンポ

場所は専修大学を基本とし、勝俣会員に確保してもらうこととなった。

### 4. 各種委員会

#### (1) 『年報』編集委員会

・前代表幹事より書評を落すことのないようにとの引継ぎあった。

#### (2) 『労働社会学会研究』（ジャーナル）編集委員会

・電子化関連して、いくつかの質疑がなされた。この中で、電子化しても従来と同じ編集体制を維持すること、掲載された論文については課金しないことが確認された。

・研究活動報告をこれまで通りジャーナルに載せるか、通信に載せるかについて議論があったが、結論が出ず、今後議論を続けることとなった。

#### (3) 研究活動委員会

・第 25 回シンポジュームの企画の方向性について、歴史の観点から労働や労働運動をとらえるという提案が出されたが、今後研究活動委員会を中心にメーリングリストで検討することとし、3 月の幹事会で提案することとなった。

・大会の日程については、社会学会、社会政策学会、社会福祉学会の日程と調整して決めることとなった。社会学会については橋本代表幹事が、社会政策学会と社会福祉

学会については京谷幹事が情報を収集することとなった。

・今年度の工場見学については、工場に拘らず被災地復興という観点から設定することも考えるということで、今後園田会員に案を出していただくことになった。

・また大会の開催にあたっては近隣県ということで戸室会員が手伝うことが確認された。

・研究例会について報告者を募ることとなった。

#### (4) 労働調査等プロジェクト検討委員会

上記のように担当幹事が決定された。

(5) 関西労働社会学研究会：名称が学会とは別の団体であると誤解される可能性があることから、規約に基づき関西部会と改称されることとなった。

(6) 社会学系コンソーシアム担当；今回幹事を改選したが、引き続き社会学系コンソーシアムにおいて山田会員が「世界へのメッセージ」編集委員として任に当ることが確認された。

(7) 社会政策関連学会協議会 特になし。

(8) 会計担当：特になし。

(9) 事務局：ホームページについて引き続き吉田会員が担当することとなった。今後別の幹事に引き継げるよう Blog 等の簡易な更新方法の導入を検討することとなった。

## 5. 新会員

次の方が新会員として承認された。

濱田澄麿（中央大学・院）

文責：吉田誠

---

## 6. 社会学系コンソーシアム

同事務局より次のような連絡がありました。「1月27日、社会学系コンソーシアム理事会において新体制が決定致しましたので、ご報告申し上げます。」

本学会からは、橋本健二代表幹事が、理事に選出されています。新体制の詳細については、同コンソーシアムHPを参照してください。

---

## 7. その他

第24回大会報告記を以下に掲載する予定でしたが、文章量が多いことから、『通信』第4号大会特集号として送ることに致しました。ご理解の程、よろしくお願いたします。

以上

\*\*\*\*\*